

## 中学生の「税についての作文」



租税教育推進活動の一環として納稅貯蓄組合総連合会並びに関係協力団体が中学生の「税についての作文」を募集し、川崎区・幸区の中学校から多数の作品が寄せられ、川崎南税務署長賞をはじめ各団体賞があり厳正な審査の結果、当川崎南法人会会長賞に川崎市立川崎中学校3年生、齊藤雅さん、川崎市立大師中学校3年生、春田凜奈さん、川崎市立塚越中学校3年生、石井かれんさんの3作品の作文が選ばれましたのでご紹介します。

### 川崎南 法人会 会長賞

### 川崎市立川崎中学校 齊藤 雅

## 税の使い道とは

2019年の10月から消費税10%になります。私は、「そもそも税って何にそんなに使ってるの？そんなに集める必要は無いのでは？」と考えていました。なので税金の使い道を調べてみました。  
結果、想像もつかなかつたものに使われていたり、以外に身近なところで必要だつたりして、びっくりしました。例えば公園です。公園を作るためのお金や、整備、維持に使うお金は税金です。公園を無料で使うことが出来るのは税金で作られているからでこそです。公園を使用するにあたってお金がかかるなんて、考えたことがありませんでした。もしも公園に入るのにお金が必要だつたら、私なら遊ばないと思います。無料なのが当たり前と思ってはいけないと、初めて知りました。そして税金が無ければ、医療費もすべて自分で払わなくてはならないそうです。以前に母から、外国で病院に行くことになつたら、すごくお金がかかってしまう、と聞いたことがあります。少し調べてみると、アメリカは救急車を呼ぶだけで何十万ととられることがあるそうです。また、日本のように公的な医療社会制度が無いので注射一本で1万円、盲腸の手術と入院で77万円かかった人もいるという資料も見ました。

以前授業で、外国の消費税がどのくらいかを学習し

たことがあります。20%を超えてる国も多々ありました。国民から不満がでないの!?と思った記憶があります。しかし実際は、「税金は高くても、その分、国が必要な生活の面倒をみててくれるのだから納得できる。」という考え方をする人が多いのだそうです。現在一番消費税が高いのはハンガリーで27%だそうです。思わず二度見をしてしまいました。日本は10%になる、高い、と騒いでいるのに27%なんて考えられません。「そんなに高かったら国民からの不満がたまってしまうのでは？」と思いましたが、どうやらそうではないようです。医療費、教育費などが無料、老後の生活の保障もある。確かに不満は少なくなるかも、と思いました。不満が出ないということは、みんながしっかりと税金の使われ方を理解して納得している、と思います。

では日本でも税金をもっと高くして無料にできるものを増やそう、となるとは思いません。が、税金がどう使われ、税金があることで助かっていることも理解することが大切だと思います。

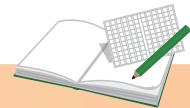


\*右の絵と左の絵には相違点が  
7か所あります。見つかります  
かな？（答えは7頁にあります）

## 間違ひ探し

### [作者紹介]

神谷一郎（かみや・いちろう） イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大法学科卒後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラストレーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」（グラフィック社刊）。



## 中学生の「税についての作文」

川崎南  
法人会 会長賞

川崎市立大師中学校

春田 凜奈

### 税について

私は税金の仕組みや知識はまだ詳しく分かりませんが、税金はみんなで社会と一緒に支える会費の様なものだと思います。

もしも世の中から税金が無かったら、公共のサービスなどにお金が掛かってしまいます。私たちが豊かで安心して暮らしていくのにとても大切です。最近テレビで税率が上がり税金が高くなると言うニュースを良く見ました。ですが、赤ちゃん用のオムツ代や生理用品代の税率も高くなるのはどうでしょうか？女性が活きていく限り生理は女性にとって常に必要であり仕方のない事です。又赤ちゃんのオムツ代やミルク代の税率が高くなると子育てがしにくくなってしまいます。現在の日本では少子高齢化が問題となっています。高齢者が増えると税金が使われている医療や年金、介護に必要なお金が増えてしまいます。でも高齢者を支える若い人の数は減っています。若い人が減っている原因は、税にあると思います。妊婦さんの医療費は普通の人よりも高くなります。ただでさえ妊婦さんは大変なのにお金が高くなってしまったら、子供が生みにくい環境になるのではないかと思います。少子化問題を解決するためにも、もっと子供を産みやすく、育てやすい環境を作る必要があると思います。でもそこで税金を減らしてしまったり、無くしてしまうと公共のサービスなどを利用する人のお金が高く掛かってしまうので大変です。これらの問題を踏まえ私達はどうするべきでしょうか？

私は、前に家で祖母の介護を手伝っていました。介護を受ける費用は介護保険によって値段が安く受けられるのに、服や食費や日用品などを買う時は、みんなと一緒に税金が掛かります。又近所の子供が5人もいるママさんは、食事や洗濯だけでもとても大変そうにしています。子供の世話だけで、とても仕事は出来ないそうです。それでも高い税率の買い物をしています。難しいと思いますが、小さい子供がいる家庭やお年寄りの人達が負担のない買い物が出来る様に税金の掛け方を工夫してくれれば良いのと思いました。以前テレビで、累進課税制度の話を聞きました。ある程度以上の高い給料（所得）がある人ほど、国に治める税率が上がる制度です。私は普段の買い物に掛かる税率にもそんな工夫を生かせば良いのと思いました。

日本の税率はヨーロッパに比べればまだ低い方だそうです。でも高い税率の税金でも国民の不満が無い国があります。スウェーデンは税率が25%だそうです。その代わりに学校は大学まで無料、病院代も18歳まで無料で、大人も病院や薬代が年間でとても安く済んで、安心した暮らしが出来ると言うのです。この様に高い税金でも確実に自分達のためになるから不満にならないのです。日本も税金が何に使われているのかピンと来ないのでなく、私達が安心して暮らすための使い方をもっと考えるべきだと私は思います。

川崎南  
法人会 会長賞

川崎市立塚越中学校

石井かれん

### 私たちの将来の町のために

私がアメリカに住んでいた時、父が悲鳴をあげていた事を印象深く記憶しています。

一、毎年医療保険に家族で100万円程支払っていた事。  
二、救急車を呼ぶのに15万円程かかった事。  
三、幼稚園に週半分の通園で毎月15万円程費用がかかった事。

一方、日本では、これらのサービスは、少額、又は無料で国・県・市による税金のお陰でその費用を負担してもらっています。日本の税金を活用したシステムやサービスに感謝する事と同時に、一方で、少子高齢化が進んでいき、税の収入が増えにくいでこれらのサービスが将来に渡って永続可能なのか心配になります。

川崎市の税の使い道に関しての調査によると、今後長期でみた場合市税収入額が大幅に伸びない中で、新たな行政課題への対応が増加するため、歳出額は増加傾向にあります。特に義務的経費が平成20年の3000億円に対して平成29年は4000億円に上がっています。さらに義務的経費の中の扶助費がこの10年で936億円から1800億円となり約2倍に増加しています。平成29年度は、扶助費1800億円の内44.7%をも占める809億円は児童福祉に使われています。この費用は、保育園の運営や子育てをしている方々への支援金のため、将来の川崎市の事業や働く女性を増やす点でもとても必要な歳出です。一方、扶助費の残りの約1000億円の

ほとんどが生活保護と社会福祉費に使われています。扶助費の内の516億円は生活保護費として病気で働けない人への支援金等に使われ、約300億円は社会福祉費として重い病気や障害を持った方々への支援金に使われています。

児童福祉費は少子高齢化問題に必要な将来の国にとって重要な投資である事に対して、生活保護費と社会福祉費は日々の市民の努力により抑制する事ができるのではないかと私は思います。例えば毎月多摩川で川崎市が開催している月例マラソンのような事業を増やし、川崎市のスポーツを活性化させる事です。スポーツ促進により、多くの市民がより健康的な体を保つ事ができ、未病の人を減らす事が出来ると考えます。また早めの健康診断を市民全員が心がける事でも重い病気の早期発見につながり、その結果、社会福祉費が減る方向にいくのではないかと考えます。さらに川崎市により多くの企業を誘致する等、より多くの人が働く環境を整備していく事が出来れば働く人が増え、その結果生活保護の抑制につながるとも思います。

税金によって様々なサービスを少額で受けられ快適な生活が送れる日本の環境に感謝すると同時に、今後より効率的な税金の使い方ができるように川崎市の一員として自分でもできる事を日々心がけていきたいと思います。